第３分科会　研究課題「教育環境整備に関する課題」

研究主題「地域に応じた学校安全の取組における教頭の役割はどうあればよいか。」

延岡支会（小学校）第１班

学校は、本来、児童生徒が安全かつ安心して学習に取り組めるところでなければならない。

しかしながら、平成 23 年(2011 年)に発生した東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)による大津波では、多くの児童生徒及び教職員が犠牲になった。

また、近年では、地球温暖化による異常気象のため、ゲリラ豪雨や線状降水帯による集中豪雨などが、日本各地で頻発している状況にある。加えて、延岡市では竜巻による被害も発生している。

このような状況のもと、わたしたち教職員は常在危機の意識をもって、より安全・安心な学校づくりに取り組んでいかなければならない。

そこで、本研究では、地域の実態に応じた学校安全の取組に視点をあて、教頭はどのようにその役割を果たしていけばよいかを研究することにした。

２　研究のねらい

地域の実態に応じた学校防災の在り方とその中での教頭の果たすべき役割について明らかにしていく。

３　研究の概要

(1)　研究の内容

地域の実態に応じた学校防災の在り方として、各種の避難訓練を取り上げ、その中での教頭の果たすべき役割について明らかにする。

(2)　研究の実際

①【引き渡し訓練】延岡小学校

〔地域の実態〕

大瀬川と五ヶ瀬川に挟まれた中州に学校があり、海抜 5.6m、海岸まで直線距離で 3.6 ㎞に位置するため、水害や津波の被害が懸念される。そのため緊急を要する際は保護者に送迎を依頼し、安全且つ迅速に保護者に児童を引き渡すことを想定し、引き渡し訓練を実施している。

〔役割〕

（事前）

○保護者に学校メールの事前登録の依頼

○配信用の定型文の作成(メール配信を迅速に行うため数種類を準備)

（緊急時）

○保護者へのメールの配信

②【引き渡し訓練】西小学校

〔地域の実態〕

学校の近くに大瀬川があるため、大雨のときは洪水による浸水被害が予想される。また学校の駐車スペースが狭いため、遠方の保護者は車で、近場の保護者は徒歩での迎えをお願いしている。

〔役割〕

（事前）

○保護者に学校メールの事前登録の依頼

（緊急時）

○気象情報の収集(気象予報、市教委)

○校長の命を受け臨時職員会を開催(全職員で共通理解を図る。)

○保護者へのメール配信

○児童への校内放送

○児童クラブへの連絡

○引き渡しの状況の確認

③【引き渡し訓練】上南方小学校

〔地域の実態〕

学校の近くに細見川が流れ、行縢川にも挟まれた地域に学校がある。そのため、学校の周りに冠水しやすいところがある。全児童の 15%ほどの児童は、片道４㎞以上の遠距離通学で、多くは車での送迎である。

〔役割〕

（事前）

○名簿作成(地区名簿、引き渡し名簿)

○引き渡しカードの作成

○迎えの車の通行案内図の事前配付

○保護者への学校安全メールの事前登録の依頼

（緊急時）

○気象情報の収集

○学校安全メールの配信

○駐在所の警察官への協力依頼

④【引き渡し訓練】一ヶ岡小学校

〔地域の実態〕

学校は、標高が 4.2m、海岸からの距離が 1.1 ㎞にあることから、大規模津波が発生した際は第２次避難場所（近くのゴルフ練習場）に避難する。また、大雨のときは、学校周辺の道路が冠水することがある。

〔役割〕
（事前：年度初め）
○保護者への一斉メール登録の依頼
（緊急時）
○気象情報の収集
○保護者へ迎えのメール配信

引き渡し訓練における教頭の役割として、どの学校も共通なものは、事前の「保護者への学校メール等の登録依頼」や緊急時の「気象情報等の情報収集」、「保護者へのメール配信」などである。その他は、地域の実態や学校のおかれている状況によって違うため、実態や活用できるリソースを把握した上での準備が必要である。保護者や地域との意思の共通理解も必要である。

⑤【避難訓練】方財小学校
〔地域の実態〕
学校が海に隣接したところにあり、地震による津波発生時には被害を受けることが想定されている。また、校舎の屋上は津波発生時には地域住民の避難場所にも指定されている。そのため、年１回は地域との合同避難訓練が実施されている。
〔役割〕
（避難訓練）
○地区役員と協議し、合同避難訓練の計画・立案及び地区役員との運営
（地震発生時）
○情報収集（各種メディア等）
○保護者及び地域住民への連絡
保護者：メール
地区長・ＰＴＡ会長：電話
○屋上へつながる避難階段の解錠及び地域住民の誘導

⑥【避難訓練（風水害）】黒岩小学校
〔地域の実態〕
学校は、祝子川沿いにあり、海岸から約９㎞、海抜 35ｍの所にある。大雨により、祝子川が氾濫したり、土砂崩れにより道路が寸断されたりする恐れがある。小学生は徒歩、中学生は自転車での通学である。また、本校は特認校であるため、校区外から登校する児童生徒がおり、保護者の送迎による登校である。
〔役割〕
（事前：年度初め）
○保護者への一斉メール登録の依頼
（緊急時）
○気象情報、ダムの放流情報などの収集
○地区役員やＰＴＡ役員からの情報収集
○校長及び中学部教頭との対応検討
○保護者へ迎えのメール配信及び電話連絡
○児童生徒の下校状況等の全体把握

⑦【防災】三川内小学校
〔地域の実態〕
学校は標高 80ｍ、海岸からの距離 7.1㎞にあり、津波の被害は考えにくいが、大規模な津波や集中豪雨が発生した場合、北浦総合支所の支所機能が学校に移転される。学校体育館が１次及び２次避難所に指定されている。しかしながら、学校体育館は山の斜面近くに位置しており、がけ崩れの危険性もあるため、３次避難場所として学校校舎を指定し、避難時の食糧を学校校舎３階の踊り場に備蓄する計画が進んでいる。登下校に関しては、小学生はスクールバスや保護者・児童クラブの送迎である。中学生は、原則自転車による自力登校である。しかし、少人数で人気のない道路を通る生徒がいるので、不審者や動物と遭遇する危険性がある。
〔役割〕
（事前）
○保護者に学校メールの事前登録の依頼
○引き渡しカードの作成
（緊急時）
○緊急時の情報収集（気象情報等）
○地域やＰＴＡ役員との連携（情報収集及び情報共有）
○保護者へのメールの配信（迎えの依頼）
○校長及び中学部教頭との対応検討

引き渡し訓練を行っていない学校においても、地域の実態や学校の置かれている状況に合わせて避難訓練等の防災対策がとられている。
小規模校が多く、日頃からＰＴＡや地域との連携が密であり、その要としての教頭の役割が大きいと言える。

４　成果と課題
(1)　成果
○　非常時に備え、教頭は学校や地域の実態をよく把握し、様々な想定の上で対策を取る必要があることが分かった。
○　迅速かつ的確な対応をするため、様々な情報を集めることや、日頃からＰＴＡや地域、関係機関と連絡を密にしておく必要があることが分かった。
(2)　課題
○　自校の学校防災をより充実させるため、県内外の学校での取組状況を知り、学校の実態に合わせて準備を進める必要がある。